

「江東内部河川・運河の活用とコミュニティ強化」プロジェクト

代表者	志村秀明【教授】(建築学部 建築学科)
構成員	原田真宏、篠崎道彦、桑田仁、佐藤宏亮、前田英寿(建築学部 建築学科)／岩倉成志(工学部 土木工学科)／佐々木毅(デザイン工学部デザイン工学科)

■プロジェクトの概要

東京湾岸地域の地域課題である河川や運河の活用やコミュニティ強化をテーマとして、学生が市民やNPO、民間事業者、自治体と協働しながら、課題発見から解決方法の提示まで行い、教育効果を高め、先進的な研究を促進し、更に社会貢献まで同時に実現しようとするものである。本学の社会的評価向上にも貢献する。各学科の基礎的な講義科目から、発展的な演習科目、更にゼミナール科目や卒業研究までを相互に関係させつつ連続的に展開させることで、教育・研究・社会貢献の質を段階的に高めようとしている。単なる教育や研究に終わらず、実際のまちづくりを向上させることで、教育・研究・社会貢献の新しい展開も狙っている。「豊洲地区運河ルネサンス協議会」や地下鉄8号線沿線まちづくりとも連携することで、最先端のまちづくりと教育、研究に取り組む。

■教育改革研究活動助成(地域志向)活動の成果

【教育】

学生は、講義科目で地域課題を理解し、PBLの形式をとるゼミナールや演習で地域課題の解決に取り組む。建築学科では、「都市地域計画」や「地域設計論」で地域課題を理解し、「プロジェクトゼミ」や「空間地域デザイン演習」で江東区や中央区の地域課題の解決に取り組んだ。また大学院では、「まちづくり特論」「都市計画総論」「Urban and Community Design」で地域課題を理解し、「建築学演習・都市地域デザイン」で地域課題の解決に取り組んだ。特に「建築学演習・都市地域デザイン」では、江東区千石地区を対象として、地域資源を活かした持続可能なまちづくりを提案した。

【研究】

アクション・リサーチの手法にもとづき、中央区佃のタワーマンション地区の地域コミュニティに関する研究、月島のもんじゃストリートのテーマパーク化に関する研究、中央区・江東区の書店と地域との関係に関する研究、江東区の地下鉄新駅開業に関する研究、東京湾岸地域の水上交通の普及方策に関する研究、人工砂浜の整備経緯と利用状況に関する研究、市街地の更新状況の把握と3Dシミュレーションによる評価方法に関する研究が取り組まれた。

更に日本建築学会大会で、東京湾岸地域に関する研究が5本、福島県南会津町に関する研究が1本、SEATUC国際会議で、中央区佃にある歴史的な家の保存・活用に関する研究が発表された。

【社会貢献】

江東区豊洲では、「豊洲水彩まつり」を7月に、「豊洲船カフェ」を9月に開催し、学生たちはその企画補助とスタッフを務めた。特にその中の「町内対抗ゴムボートレース」では、8チームによるレースを取り仕切った。また「運河クルーズ」では、東京湾岸地域の地歴について学修した上で、船上からの風景について分かりやすく、また楽しくガイドを行い好評だった。

更に福島県南会津町舘岩地区の歴史的建築物で町の文化財に指定されている「湯の花舞台」の保存と活用方法について、地元の方々と意見交換を行った。また集落再生活動である「たのせふるさとまつり」の支援活動に11名の学生が従事した。



豊洲水彩まつりでの町内対抗ゴムボートレース。学生たちがレースを取り仕切った



「建築学演習・都市地域デザイン」の最終発表会。江東区や区民等が参加した。



南会津町湯の花集落の湯の花舞台の視察。どう活用するか意見交換した。

主なトピックス

プロジェクトゼミ 近隣商店街の再生デザイン

建築学科3年生9名が、江東区にある「大島中の橋商店街(サンロード中の橋)」の再生方法について提案した。この商店街は、ミニ戸建て住宅開発などによって店舗数が減少しており、商店街としての賑わいが危うい状況にある。危機感をもつ商店街振興組合と連携してゼミナールを行った。

まず商店街のイベントを手伝いながら現地調査を確実にを行い、①商店街北側の賑わいが不足していること、②子どもの遊び場が少ないこと、③若い世代にとっての魅力が少ないこと、といった課題を把握し、これらの課題を解決する提案を作成した。

【提案1】商店街北にある中の橋周辺の高架下空間をコミュニティガーデンやスポーツパークとして活用

【提案2】商店街北側にある空き店舗ビルを、チャレ

ンジョップや子育て支援施設などとして活用

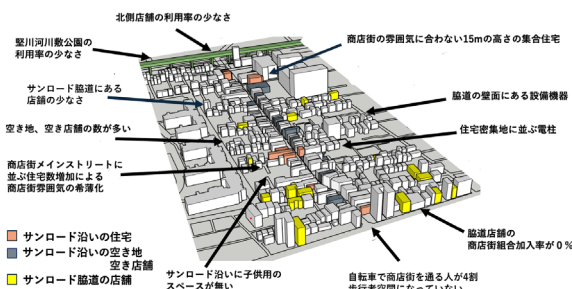
【提案3】商店街に住宅が増えないように、街並み誘導型地区計画を策定して街並み整備を行う提案

以上の作成した提案を、商店街振興組合の役員に対してプレゼンテーションして意見交換を行った。

サンロード中の橋 吉川マイウェイビル リノベーション案



【提案2】
商店街北側にある空き店舗ビルのリノベーションの提案



商店街の課題をまとめた俯瞰図: 商店街の状況と課題がわかりやすくとめられた。



【提案1】中の橋周辺高架下活用の提案



商店街振興組合役員に対する発表。まちづくりに貢献するだけではなく、学修効果を高められた。

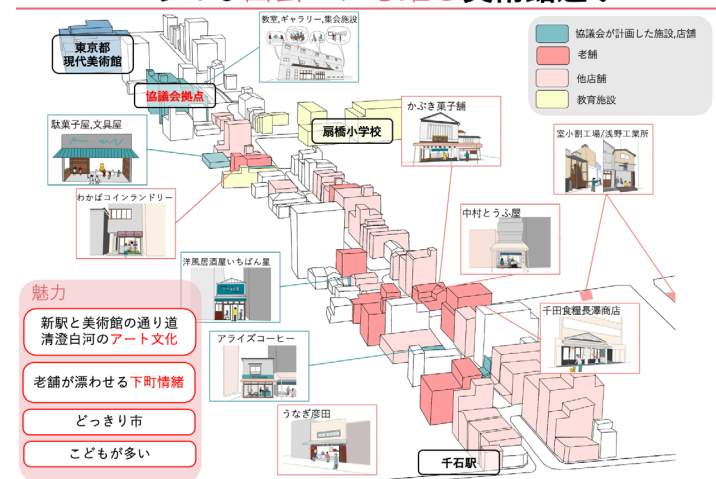
建築学演習・都市地域デザイン 地域資源を活かした持続可能なまちづくり

18名の大学院生が、地下鉄8号線新駅ができる(仮称)千石駅周辺地区を対象として、江東区や都市計画コンサルタント・URリネージュ、地元まちづくり協議会と連携しながら持続可能なまちづくりを提案した。

地区の中で特に重要といえる「美術館通り沿い」「四ツ目通り沿い」「横十間川親水公園沿い」「仙台堀川北側」の4地区で提案した。

提案した内容は11月に、地元住民や江東区、URリネージュに対して発表し、高い評価を得た。その後12月には、地元まちづくり協議会でも発表し、やはり高い評価を得た。学生たちの授業満足度も高かったことから、教育効果を高めつつ、実際のまちづくりと連動して地域に貢献する高度な内容をもなった演習が実施できたと言える。

いろんな出合いに心躍る美術館通り



人の営みが息づき、商いと暮らしが滲みだす 四ツ目通り (C地区)

1. 高層マンションの乱立への対応

→ まちづくりガイドラインの作成

Point: マンションの開発を禁止するのではなく、地域の要素を保ちながらまちの賑わいを促進する

天空率に対する高層建築物・ワンルームマンションへの地域貢献施設導入の誘導、壁面後退、色彩、広告物等の事項を定めるルール...

2. 道路拡幅によって残る狭あい敷地の活用

→ 住民の居場所を創出

Point: 周辺敷地との一体開発前の空き地でも暫定利用として積極的に活用し、後の開発にも活かす

民地の活用: 地域の飲食店・販売店舗

公地の活用: ポケットパークとして暫定利用

3. 駅の出口提案



人の営みが息づき、商いと暮らしが滲みだすこれからの四ツ目通りの実現

地下鉄新駅の出入り口ができる四ツ目通り沿いの魅力を高めようとする提案